



岐阜西教区主催

## こども合宿のお誘い

今年の夏は、大智寺のこども合宿がなくなりましたがなんと、すぐそばの跡部の恵利寺にてこども合宿が行われます。この合宿は妙心寺派の岐阜西教区が主催しており、楽しい企画をご用意して皆さまをお待ちしています。



合宿の日程は、7月22日～23日の一泊二日で、対象は小学3・4・5・6年生と中学生の50名です。集合時間や持ち物等の詳細は、まだ決まっていませんので後日、ご希望の方に直接お伝えします。



合宿中には、たくさんの和尚様と一緒に寝起きします。岐阜市、関市、山県市などから幅広く参加しますので新しいお友達もできることと思います。大智寺副住職もスタッフとして参加しますので、ご安心ください。

合宿会場：尾崎山 恵利寺

電話：0575-46-2065

住所：関市武芸川町跡部 705

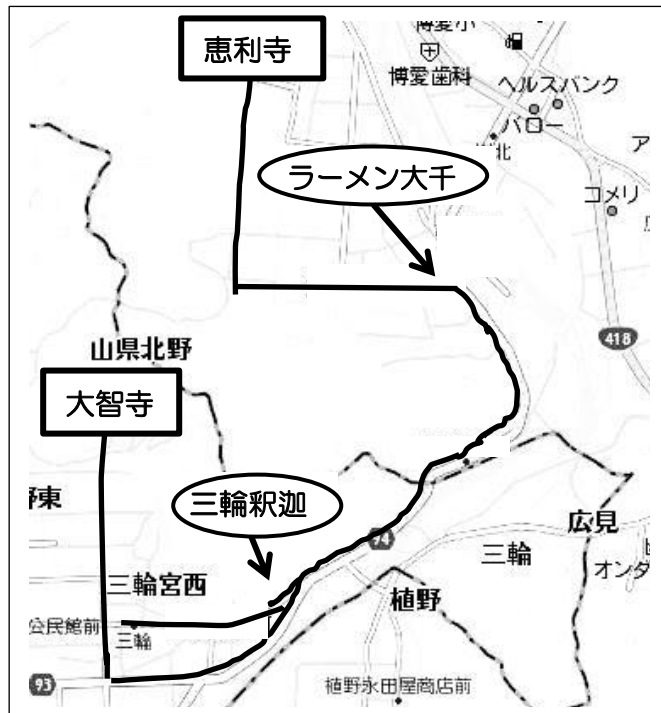
三輪駅前の道または、花屋のある県道93号線から県道94号線に入り、関市へ入ります。



走るうちに左手側に「ラーメン大千」が見えたらその手前の道を左折します。川を渡ったら行き過ぎなので引き返してください。



田畑が広がる細道を走ると、右手側に桜並木が見えます。右折して、その桜並木を直進すると、到着します。



この合宿は中学生のお友達も参加できるので兄弟姉妹、お友達同士お誘い合わせの上、どなた様もお気軽にご参加ください。

参加費用は例年3500円程です。(未確定)  
お申込みやお問い合わせは、  
大智寺までご連絡ください。(058-229-1532)



# 大智寺だより

平成 25 年水無月  
Vol.40

発行所  
大智寺

岐阜市山県北野  
668-1

電話:058-229-1532

《Mail》

hybsr245@ybb.ne.jp

《ホームページ》

大智寺

検索

<http://www.daichiji.com>

当紙は、大智寺本堂及び墓地の水小屋にてご自由にお取りいただけます。又、当寺ホームページにて過去の紙面をご覧いただけます。ご活用ください。

5月号発行部数  
200部

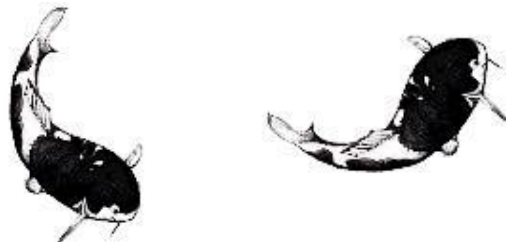
ご愛読

ありがとうございます

### 得月池に糸張りをしました

5月の始め、お寺の近くの方と一緒に池の表面に糸を張りました。

杭を池のまわりにたくさん立てて一本の杭から5本の糸が手のひらのように広がっています。



得月池では、サギをはじめ野鳥が常連さんになっており、池の鯉をなかなか守れず手づくりのいかだなど浮かべていましたが、これからは安心できるものと思います。

ただ、イタチやテンなどは少し水の中に入ることもできるそうで、糸では対処できそうにありません。

糸張りを終えた当日、再び池に30匹ほどの鯉を放ちました。

最近、朝の散歩ついでに池で鯉とたわむれてくださる姿も見えますますます大切にしていかなければと感じます。

池ではスイレンや花菖蒲、カキツバタやコウホネなど少しずつにぎやかになってきました。お墓参りの際などに、またお寄りください。

### 美濃西国三十三観音霊場 総開帳



平成26年日程決定 4月6日(日)～4月20日(日)

「美濃西国三十三観音霊場」とは、江戸時代中頃に成立したといわれる、岐阜市・関市・美濃市・山泉市を中心とした観世音菩薩巡礼地のことです。美濃西国三十三観音霊場、尾張三十三観音霊場、三河三十三観音霊場、豊川稻荷を合わせて「東海百観音」ともいわれ、多くの方に親しまれています。



そんな美濃西国三十三観音霊場では、4年に一度 総開帳を行い、普段は拝見することができない観音様を皆様にお参りいただいております。

ちょうどその4年に一度の機会が、来年平成26年4月6日から4月20日までの2週間と決まりました。大智寺でも4年前と同じようにバスツアーを組む予定となります。よろしければご一緒に美濃西国三十三観音めぐりをいたしましょう。

「観音霊場めぐり」と聞くと、笠をかぶり笈摺を着て杖をつくようなお姿を思い浮かべる方もいらっしゃると思います。

あの笠や笈摺に書かれた「同行二人(どうぎょうににん)」の言葉には、『観音様とともに歩く』という心が表されています。

観音霊場めぐりは、ただご朱印をいただくスタンプラリー的なものではありません。一人で歩いていると思っていても、常に観音様に見守られ助けられて歩く道々です。



観音様はいろいろなお姿となり、私たちをお守りくださいます。それは優しい隣人の励ましかもしれませんし、疲れた時の一杯の水かもしれません。自分がくじけそうな時、そっと手を差し伸べてくれるすべてに、ありがたく手を合わせる、そんな心のあたたまる霊場めぐりができればと切に願います。



～ まめ知識 インタビューしてみました ～  
第十回：お仏壇屋さんの「木魚と楮（ばい）」エピソード



ご自宅のお仏壇に手を合わす毎日に、  
ちょっとお役に立てればありがたい、そんなお話。

お仏壇に向かってお経をお唱えする時、  
ポクポクとリズムをとってくれる木魚は大切な仏具です。  
また「楮（ばい）」とは聞き慣れないと思いますが、木魚を打つ棒のことです。

木魚は大きく分けて白木でできたものと、赤い塗りのものとあります。  
白木でできた木魚には、よくしなる性質である籐の柄の楮を合わせて使い、  
赤い木魚には、表面の漆に衝撃が少ないよう、木の赤い棒の楮を使います。  
それらを、混同して使うと大切な木魚が傷む原因となります。

また木魚を打つための楮は消耗品です。  
先端部分は芯に裂れを巻き、その上から袋状の鹿革をかぶせて丸く仕立ててあります。  
使っている間に先端が破れたら、木魚への衝撃が大きくなります。  
必ず木魚を守るためにも、破れた先端は修繕するよう心がけていただければと思います。

このシリーズは今回で終了させていただきます。大野仏壇総本店様、本当にありがとうございました。



恵みの雨に感謝し、自然に逆らう  
ことなく「身をゆだね、お任せす  
る」という智慧により、心穏やか  
に赤子のよつな安心を得られる  
のかも、と雨に思いつく頃です。

親に大切にされてきた安心感は、誰の心にもかけがえ  
のない「よりのこころ」として記憶されています。そして  
その記憶をもっとたどって、自分をひとつの命として考  
えてみると、大自然の大きな安心感に包まれて生きて  
いることに気づきます。

先日ある方が「今ソラマメがたくさん採れるんやで。  
大切に布団でくるまれたみたいなお豆で、自分もこんな  
ふうに着てられたんかなあ、って思わされるよ、ほんと」  
とおっしゃっていたのが印象的でした。



幼い頃、親の大きな傘の下に抱かれ、  
安全地帯に入ったかのように安心  
しきっていた感覚や、より大きな  
水たまりに足を入れたくて大人用  
の長靴を履いて満足していた感覚が  
昨日のこのようによみがえって  
6月はなつかしさがこみ上げます。  
しとしとと雨が続き、梅雨入りを迎えました。小学生  
の子も達が黄色の小さな傘を並べて歩く姿が、かわい  
らしく田園風景に映え、ほっと心を和ませてくれます。  
雨音がいろいろな雑音をかき消して、人の足が遠のいて  
いる間に、山の景色は一段と変わっていきます。  
雨を越えると、もう夏が待っています。

今月のひまわり

～ シリーズ 北野のおばあちゃんの味 ～

♪ 北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ ♪

里1号のおばあちゃん 孫も喜ぶ フライドポテト

- ① ジャがいもを細長く切る。(新じゃがの皮はむかなくてもいい)
- ② 切ったじゃがいもを水の中に入れて、5分くらい待つ。
- ③ その間に、他のボールに小麦粉と片栗粉を1：1の割合で混ぜ合わせておく
- ④ ジャがいもをザルにあげて、水気をふき取り③をまんべんなくふりかける。
- ⑤ フライパンに油を大目に入れて、中火でじっくりゆっくり揚げて出来上がり。

今、新じゃががおいしいでねえ。揚げたらすぐ塩コショウかけるとええよ。





## ～ うちの宗教って、どんなやつけ？ ～

第六回： 大応国師の法灯を継いだ宗峰妙超（大燈国師）



大智寺の宗門を、やさしく簡単におわかりいただければ嬉しい、そんなお話

とうとう鎌倉幕府も末期となる中、鎌倉では南浦紹明（大応国師）の下、若き宗峰妙超が日々禅の修行に明け暮れていました。そして、26才にして「雲門の関字」といわれる公案を透通し、印可を受けます。

その後、師である南浦紹明が鎌倉建長寺にて亡くなると、1309年に宗峰妙超は鎌倉を出て、京都東山にて乞食となり修行生活を送ることとなります。時は流れて1315年、叔父赤松氏の帰依により洛北紫野に居を構えさらに乞食生活を続け、修行一心に日々を送ります。

時の権力者 花園上皇は数多くの乞食集団の中から宗峰妙超を探すべく、宗峰妙超の好物まくわ瓜を乞食に振る舞う高札を立て、集まった乞食に向かって「脚無くして来たれ」と叫ぶと、すかさず「手無くして渡せ」と乞食の一人が叫んだため、宗峰妙超であることが判ったとの逸話は有名です。

こうして宗峰妙超は20年近く続けた乞食生活を終え、花園上皇の帰依を受け1325年に龍寶山 大徳寺を開山し、世に仏法を説き続け朝廷より「大燈国師」の名を拝受しました。

以後、大徳寺は多くの修行僧を導き、今日まで臨済宗大徳寺派の大本山として仏法を今に伝え続けています。



## ♪ 月に一度はお寺まいり ♪

初心者 大歓迎  
東日本大震災物故者追善供養  
毎月 第四日曜日  
定例写経会

### 今月の日程

6月23日（日） 一回 500円  
（朝8時～9時） （内300円は義援金）  
要申込

### 5月写経会 備忘録

新緑まぶしい日曜日、先月に引き続き観音經の写経に取り組みました。今回は、「世尊妙相具～能滅諸有苦」までの部分にどんなことが説かれているかの話となりました。「観音様はどうして観音様という名前なのですか」という問いから始まるこのお経は、とてもわかりやすく観音様について説かれており、法要でも必ずお唱えするお経です。

## 永代供養墓って、どんなお墓？

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りの方がいなくても、永代にわたって、お寺が守って供養するお墓のこと。

大智寺の永代供養墓は、ご夫婦ご家族一緒にひとつのお墓にお眠りいただけるタイプです。永代に亘り、他の方のお骨と混じらないことから「完全個別永代供養墓」といいます。

ご希望の方は、いつでもご相談ください。



完全個別永代供養墓  
1区画：38万円～  
（墓石代金含む）

ご家庭のご事情により、また、その方のご希望により費用は変わります。

詳しくは、ご見学を含めてご説明いたしますので、ご予約の上、ご来山ください。